

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3670200470		
法人名	社会福祉法人 緑樹会		
事業所名	グループホームおおつ		
所在地	徳島県鳴門市大津町大代字戎野472番地		
自己評価作成日	令和元年12月18日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 徳島県社会福祉協議会		
所在地	徳島県徳島市中昭和町1丁目2番地 県立総合福祉センター3階		
訪問調査日	令和2年1月13日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

住み慣れた地域の中で、家族様や地域住民、民生委員に老人会の方々との交流の場を作り、運営推進会議への参加の依頼。また近隣の小学校やボランティアの交流の機会を設け喜ばれています。老人会の方々とは、囲碁ボールと一緒にされ、地域の大会にも参加しています。事業所内に託児所があり、季節に応じたイベントに子供達も参加し、一緒に楽しんでいます。お食事会やお茶会など積極的に地域のお店を利用しています。職員のスキルアップの勉強会や、地域の方々にも認知症や疾病に対する理解を深めて頂けるように、運営推進会議や老人会の議題に上げて地域の型と一緒に取り組んでいます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、幹線道路から少し離れた大きな敷地内に、併設の他サービス事業所とともに立地している。利用者同士の交流や事業所同士の連携・協力を行うなど、併設施設の利点を活かしている。併設の他サービス事業所と合同で、夏祭りや敬老会、囲碁ボール大会を実施して、地域住民や近隣小学校などから多くの参加・協力を得ている。近隣小学校の行事にも、利用者とともに参加するなど、相互に交流を行っている。地域の自主防災組織の要望にもとづいて、敷地内に防災倉庫を設置するなど、地域防災への連携協力にも取り組んでいる。また、事業所内の研修や併設の他サービス事業所との合同研修会、外部の研修会などの参加を積極的に呼びかけるなど、人材育成の体制も整備している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			花 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	管理者は日々のカンファレンス等の中で運営方針を職員に周知している。また経営理念や職員業務心得を事務所に掲げ、申し送り時に唱和しケアの実践に繋げられるように共有している。利用者、家族には入居の契約、説明の際に契約書等にて十分な説明を行っている。	事業所では、地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念を掲げている。理念を事業所内に掲示したり、毎朝の申し送り時に理念を唱和したりして、職員間での共有化を図っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣地域の小学校、老人会やボランティアとの関わりを積極的に行い、事業所主催の行事には地域住民を招待している。また地元の老人会とは囲碁ボールの慰問を通じて触れ合える機会を作っている。	事業所は、共用空間の一部を、地域に向けて開放している。年末の餅つき大会や囲碁ボール大会、地元小学校の運動会などの機会には、利用者とともに参加するなど、地域住民と交流する機会を設けている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	実践や研修で培った認知症の支援の方法や、知識を、運営推進会議等を通じて発信している。また、地域の高齢者やその家族に困ったことがないかを問いかけている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者や家族、民生委員、市職員、老人会に参加して頂き、事業実施状況や行事報告等を行っている。参加者からの意見や提案を真摯に受け取り、サービスの向上に繋げている。	2か月に1回、運営推進会議を開催している。会議には、利用者や家族等、地域の代表者などのほか、会議後に開催する研修のテーマにそって、地元警察や消防署など、多様な出席を得ている。出席者から出された意見等は、職員間で共有化を図り、サービスの質の向上に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	介護相談員の報告会に同席してもらったり、事業所の行事、運営推進会議への参加を呼びかけている。月次報告の際には、現状報告を行い、ボランティアについても相談・報告を行っている。	管理者は、毎月、市の担当窓口を訪問し、事業報告を行うとともに、事業所をとりまく制度の改正等について、情報交換を行っている。また、介護相談員の報告会にも参加するなど、連携協力を図っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護保険指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	利用者の抱える身体・精神的な病気を理解できるよう努めている。現在、身体拘束の対象となる方はいない。法人内で開催している研修会に全職員が参加している。また運営推進会議の議題で取り上げ、外部の方々の意見を聞く機会を作っている。	事業所では、身体拘束をしないケアの実践に向けて、委員会を設置している。研修会を実施したり、自己点検シートを活用したりして、職員間での周知・理解を図っている。日中は玄関を開放するなど、利用者の自由な暮らしに向けて支援している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人内で開催している研修会には全職員が参加している。利用者の状態を把握して、家族との連携を保ちながら信頼関係を築いている。職員間でチームワークを強化して虐待防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			花 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	法人内研修の開催や外部研修への参加を行っている。生活自立支援事業や成年後見制度の必要な利用者がいれば、活用できる体制がある。また利用者の人権を尊重したサービスが提供できるように努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	重要事項説明書や契約に基づき、十分な説明を行い同意を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	事業所には意見箱を設置し、相談、苦情を気軽に言ってもらえるように声掛けをしている。受付窓口の責任者や第三者委員会等を文書で明示して家族に伝えている。	職員は、日ごろの利用者とかかわりの中で、意見や要望等をききとっている。家族等については、面会時のききとりや事業所入り口に意見箱を設置するなどして、意見等の把握に努めている。出された意見等をもとに協議し、運営面に反映している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	年2回の職員面談、月1回のワーカー会議や職員会議等で職員の意見、相談を聞く機会を作っている。また日常業務の中でも、その都度意見を聞きながら業務に反映している。	管理者は、毎日の申し送りの際に、職員からの意見や提案等を確認している。年2回の個別面談や月1回の職員会議などの機会には、相談等も受けている。意見や提案等をもとに検討し、運営面に反映している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課表などを参考にして、職員個々のレベルを把握し、正規職員の登用に活用している。自己点検シートにて、自己目標の設定、自己評価を全職員が行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人全体研修の年間計画を作成し実施している。施設外研修には勤務年数等を加味し参加している。研修参加者は復命書にて報告を行っている。また、職員会議で研修結果を発表する機会を設けている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修参加の際には、同一サービス事業者とのネットワークづくりに努めている。同法人県外事業所での研修にも参加している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			花 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居の際には、本人との面談を通じて関わりを持ち、気持ちを受け止め、内面の声に耳を傾けるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	本人は元より、家族の意向・要望の把握に努め、生活歴等を鑑み、良好な関係性を築けるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談者・本人の実情や要望をもとに入居判定員会で入居を決定している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一律の介護ではなく、個別に対応行い、常に自立支援を念頭に支援している。本人が出来る事を共に模索しながら生活し、新たな発見ができるような関わりを持っています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	行事等の際には家族に案内し、参加の呼びかけを行っている。また外泊や外出の援助を行い利用者と一緒に楽しんでいただけるような雰囲気作りを心掛けている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人の生活歴やこれまで培ってきた人間関係と地域社会との関係を把握し、支援している。また外出する機会が多い利用者は家族と協力し外出支援を行っている。	事業所は、利用者の友人や知人が気軽に来訪することができるよう、相談スペースを設けるなど、環境に配慮している。希望に応じて、行きつけの美容室へ出かけた後、年賀状作成を手伝ったりするなど、馴染みの関係継続に向けて支援している。また、外出や外泊を行う際は、家族等の協力を得て取り組んでいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個々の生活スタイルをもとにし、過ごしやすく、安心して暮らして頂けるような環境作りにも努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			花 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他事業所へ移った方を訪問し、継続した関わりを持っている。入院となり退居された方も同様にお見舞いに何うなど関係性を継続して持っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で利用者の表情や仕草から希望、意向を把握し利用者一人ひとりに適切なサービスの提供が図れるように努めている。	職員は、日ごろの支援のなかで、利用者の表情や仕草から、意向や希望等を把握するよう努めている。意思の表出が困難な場合は、家族や専門医などの関係者からの意見等を得て、本人本意に検討し、支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居される際には、アセスメントを行い。生活歴、馴染みの関係等を把握し、サービスに反映できるようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者の現状を総合的に把握し、職員間で情報を共有し本人のストレングスに着目した支援ができるよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月、担当者会議、ワーカー会を開催し、現状の把握に努め、介護計画に落とし込みを行っている。会議録、ワーカー会の記録は回覧行い、会議に参加できなかった職員にも周知できるようにしている。	事業所では、定期的を開催する担当者会議を通じて、介護計画書を作成している。会議には、利用者や家族等、関係機関などの出席を得ている。また、3か月に1回、モニタリングを実施して、利用者一人ひとりの心身の状況に応じた計画となるよう取り組んでいる。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護ソフトを活用し、日常の具体的な状況や様子が記録され、保存されている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	常時利用者の状態を把握し、その時々ニーズに応じた支援を行っている。		

自己	外部	項目	花		
			自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣に散歩や買い物、行事への参加にかけ顔見知りの関係を築けるようにしている。また定期的な介護相談員の訪問やボランティアの慰問等、地域資源と協働しながら支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居後も馴染みの医師による継続的な医療を受けられるように送迎や病院での付き添いの支援を行い、本人、家族の意向を尊重している。また、希望があれば精神科の往診を支援している。	事業所では、入居時に、利用者や家族等に聞き取りを行い、かかりつけ医の受診を支援している。月2回の歯科医の往診や週1回の歯科助手による口腔ケアを受けるなど、利用者の健康に配慮している。また、専門科を受診する際は、家族等の協力を得て取り組んでいる。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	併設事業所の看護師に相談している。また、24時間相談可能な医療機関がある。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者の入院時には、本人のストレスや負担を軽減するため、家族と相談しながら本人に対する情報提供を行っている。また、ソーシャルワーカーと密に連絡を取り合い治療の経過、退院の時期の話し合いを行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居の契約の際には、終末期支援の話し合いを行うが、入居後も本人、家族の希望と確認を行っている。また、看取りケアの対応については医療、介護で適時、情報共有を行いながらチームで支援する体制を整備している。	事業所では、入居時に、利用者や家族等に向けて、重度化や終末期における対応について文書で説明し、同意を得ている。随時、利用者の心身の状況に応じて、支援している。また、併設の他サービス事業所と連携して、緊急時における体制を整備するなど、チームで支援に取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に事業所内研修や、勉強会を開催している。また、緊急連絡網を整備しており、不測の事態に対応できるよう努めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署の協力のもと、防災訓練を年2回に行っている。非常災害時にも緊急連絡網を利用し地域住民や老人会の方の協力を得ている。事業所内でも研修を行っている。	事業所では、年2回、併設の他サービス事業所と連携して、避難訓練を実施している。災害時に備えて、事業継続計画も作成している。また、地域からの要望により、敷地内に防災倉庫を設置するなど、地域における協力体制も整備している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			花 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシーや倫理に関する研修を行い、一人ひとりの人格を尊重した対応を徹底している。職員は人格の尊厳に配慮した丁寧な言葉使いを心掛けている。	事業所では、日ごろの支援のなかで、利用者の尊厳やプライバシーを損ねることがないように、職員間で言葉遣いなどを確認している。年1回、プライバシーや倫理に関する研修を実施するなどして、職員の理解を深めるよう取り組んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日頃の会話や表情、態度を読み取り、声かけや支援に反映させています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者一人ひとりの生活リズムに配慮し、起床や入浴、食事等は本人のペースでできるよう柔軟な対応を行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣類は自分で選び、その人らしい身だしなみができるよう支援している。また、馴染みの理髪店を利用できるよう外出支援を行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	メニュー作りから利用者に関わり、残存機能を活かしながら職員と共に、簡単な調理や片付けをしている。月2回のお食事会、お茶会を開催している。また施設内の畑では、一緒に野菜を栽培、収穫し食事に取り入れる等の工夫をしている。	食事のメニューは、利用者の好みを踏まえつつ、併設の他サービス事業所の栄養士の協力を得て作成している。利用者とともに菜園で育てた野菜を使うことで、収穫の喜びや季節感を味わうことができるよう工夫している。また、月2回、利用者の希望に応じて外食を行うなど、食事が楽しみなものとなるよう支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養面に関しては、併設事業所の栄養士からアドバイスを受けメニューを作っている。食事・水分摂取量をチェックし、1日を通して必要な食事や水分が摂れるよう支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアの実施を習慣にしている。必要に応じて本人や家族に説明し、週1回の歯科往診、歯科クリーニングを実施している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			花 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	日々の排泄チェックを行い、排泄周期を把握し、声かけや誘導を行っている。日中はトイレでの排泄の声かけをし支援している。また利用者のプライバシーを損なわないように声掛けにも工夫している。	事業所では、排泄チェック表を活用して、利用者一人ひとりの排泄パターンの把握に努めている。トイレ誘導の際は、プライバシーを損なうことのないよう、声かけなどに配慮している。また、居室にポータブルトイレを設置するなど、個別の状況に応じた支援も行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	十分な水分摂取ができるようにケアし、腹部マッサージや適度な運動を実施し、自然に排便できるよう配慮している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴の時間帯や順番など、利用者一人ひとり応じた支援をしている。拒否のみられる利用者には、声かけをする職員を交代するなどの工夫をし利用者が納得して入浴する事ができるように支援している。	事業所では、週3回は入浴することができるよう支援している。一人ひとりの心身の状況に応じて、特殊浴槽を活用したり、時間帯を変えたりしている。季節に応じて、ゆず湯や菖蒲湯を行うことで、入浴を楽しむことができるよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者の睡眠パターンを把握し、散歩や家事等の日中の活動を促し、本人に合わせてリズム作りをしている。夜間不眠傾向のある方は、医師や家族と連携し対応行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者が服用する薬の目的を理解し、正しく服薬できるよう支援している。定期受診時には、本人の状態や日常の記録を提供している。また状態の変化等ある場合は、その都度、家族や医師に連絡している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日頃の生活から利用者一人ひとりの楽しみや役割を見出し、得意な分野で能力を発揮できる環境作りを行っている。読書が好きな方は移動図書館を活用している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	本人の体調を考慮し、敷地内での散歩、バラ園やコスモス祭り、ビアガーデン等に出かけている。また、近隣小学校の運動会の見学や同法人主催のお祭り等に参加している。	事業所では、日ごろから、利用者とともに敷地内を散歩したり、菜園で野菜を作ったりして、外出する機会を設けている。運動会や囲碁ボール大会など、近隣小学校と交流する機会もある。また、家族等の協力を得て、外泊などにも取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			花 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在は利用者の預かり金は無く。買い物等で支払いがある場合はユニット費を使用し、できるだけ利用者にして頂き、職員は見守りをしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族と連携を図りながら、手紙のやりとりや電話での会話の支援を行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	天候に応じて照明を調節するなど生活する上でストレスとならないよう配慮している。同様に、不快な音にも配慮している。またパルコニーには季節の花や野菜を育て、日光浴などをして過ごして頂けるように環境の整備を行っている。	共用空間には、大きな窓があり、明るさを感じることができる。広いベランダには、季節の花や野菜を植えたプランターが並び、利用者の楽しみなどに繋がっている。壁面には、利用者と職員と一緒に作成した作品を飾るなどして、居心地よい空間づくりに取り組んでいる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	玄関前の共有空間には、造り付けのベンチやゆっくり座ってくつろげるソファを設置し、一人で過ごしたり、気の合う利用者同士で過ごせる空間がある。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時には、家族写真や馴染みの家具等を持ってきていただき、住み心地の良い、安心できる部屋作りを行っている。また、職員と一緒に居室の飾り付けをし、居心地の良い空間作りを支援している。	居室には、利用者の趣味の品や家族の写真、使い慣れたタンスなど、好みのものを持ち込んでもらっている。定期的に清掃を行い、清潔感を保つとともに、一人ひとりが居心地よく過ごすことができるよう環境作りに取り組んでいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	能力に応じて、できることはしてもらいながら、残存機能の維持に努め、必要に応じて支援をしている。また、居室の入り口には手作りの表札を設置し、トイレ等も分かりやすいように表示している。		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			月	月	月
			実践状況	実践状況	実践状況
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	管理者は日々のカンファレンス等の中で運営方針を職員に周知している。また経営理念や職員業務心得を事務所に掲げ、申し送り時に唱和しケアの実践に繋げられるように共有している。利用者、家族には入居の契約、説明の際に契約書等にて十分な説明を行っている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣地域の小学校、老人会やボランティアとの関わりを積極的に行い、事業所主催の行事には地域住民を招待している。また地元の老人会とは囲碁ボールの慰問を通じて触れ合える機会を作っている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	実践や研修で培った認知症の支援の方法や、知識を、運営推進会議等を通じて発信している。また、地域の高齢者やその家族に困ったことがないかを問いかけている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者や家族、民生委員、市職員、老人会に参加して頂き、事業実施状況や行事報告等を行っている。参加者からの意見や提案を真摯に受け取り、サービスの向上に繋げている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	介護相談員の報告会に同席してもらったり、事業所の行事、運営推進会議への参加を呼びかけている。月次報告の際には、現状報告を行い、ボランティアについても相談・報告を行っている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	利用者の抱える身体・精神的な病気を理解できるよう努めている。現在、身体拘束の対象となる方はいない。法人内で開催している研修会に全職員が参加している。また運営推進会議の議題で取り上げ、外部の方々の意見を聞く機会を作っている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人内で開催している研修会には全職員が参加している。利用者の状態を把握して、家族との連携を保ちながら信頼関係を築いている。職員間でチームワークを強化して虐待防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	月	自己評価	自己評価
			実践状況		実践状況	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	法人内研修の開催や外部研修への参加を行っている。生活自立支援事業や成年後見制度の必要な利用者がいれば、活用できる体制がある。また利用者の人権を尊重したサービスが提供できるように努めている。			
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	重要事項説明書や契約に基づき、十分な説明を行い同意を得ている。			
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	事業所には意見箱を設置し、相談、苦情を気軽に言ってもらえるように声掛けをしている。受付窓口の責任者や第三者委員会等を文書で明示して家族に伝えている。			
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	年2回の職員面談、月1回のワーカー会議や職員会議等で職員の意見、相談を聞く機会を作っている。また日常業務の中でも、その都度意見を聞きながら業務に反映している。			
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課表などを参考にして、職員個々のレベルを把握し、正規職員の登用に活用している。自己点検シートにて、自己目標の設定、自己評価を全職員が行っている。			
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人全体研修の年間計画を作成し実施している。施設外研修には勤務年数等を加味し参加している。研修参加者は復命書にて報告を行っている。また、職員会議で研修結果を発表する機会を設けている。			
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修参加の際には、同一サービス事業者とのネットワーク作りに努めている。同法人県外事業所での研修にも参加している。			

自己	外部	項目	自己評価	月	自己評価	自己評価
			実践状況		実践状況	実践状況
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居の際には、本人との面談を通じて関わりを持ち、気持ちを受け止め、内面の声に耳を傾けるよう努めている。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	本人は元より、家族の意向・要望の把握に努め、生活歴等を鑑み、良好な関係性を築けるよう努めている。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談者・本人の実情や要望をもとに入居判定員会で入居を決定している。			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一律の介護ではなく、個別に対応行い、常に自立支援を念頭に支援している。本人が出来る事を共に模索しながら生活し、新たな発見ができるような関わりを持っています。			
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	行事等の際には家族に案内し、参加の呼びかけを行っている。また外泊や外出の援助を行い利用者と一緒に楽しんでいただけるような雰囲気作りを心掛けている。			
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人の生活歴やこれまで培ってきた人間関係と地域社会との関係を把握し、支援している。また外出する機会が多い利用者は家族と協力し外出支援を行っている。			
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず、利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個々の生活スタイルをもとにし、過ごしやすく、安心して暮らして頂けるような環境作りに努めている。			

自己	外部	項目	自己評価	月	自己評価	自己評価
			実践状況		実践状況	実践状況
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他事業所へ移った方を訪問し、継続した関わりを持っている。入院となり退居された方も同様にお見舞いに伺うなど関係性を継続して持っている。			
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で利用者の表情や仕草から希望、意向を把握し利用者一人ひとりに適切なサービスの提供が図れるように努めている。			
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居される際には、アセスメントを行い。生活歴、馴染みの関係等を把握し、サービスに反映できるようにしている。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者の現状を総合的に把握し、職員間で情報を共有し本人のストレングスに着目した支援ができるよう努めている。			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月、担当者会議、ワーカー会を開催し、現状の把握に努め、介護計画に落とし込みを行っている。会議録、ワーカー会の記録は回覧行い、会議に参加できなかった職員にも周知できるようにしている。			
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護ソフトを活用し、日常の具体的な状況や様子が記録され、保存されている。			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	常時利用者の状態を把握し、その時々ニーズに応じた支援を行っている。			

自己	外部	項目	自己評価	月	自己評価	自己評価
			実践状況		実践状況	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣に散歩や買い物、行事への参加にかけ顔見知りの関係を築けるようにしている。また定期的な介護相談員の訪問やボランティアの慰問等、地域資源と協働しながら支援している。			
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居後も馴染みの医師による継続的な医療を受けられるように送迎や病院での付き添いの支援を行い、本人、家族の意向を尊重している。また、希望があれば精神科の往診を支援している。			
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	併設事業所の看護師に相談している。また、24時間相談可能な医療機関がある。			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者の入院時には、本人のストレスや負担を軽減するため、家族と相談しながら本人に対する情報提供を行っている。また、ソーシャルワーカーと密に連絡を取り合い治療の経過、退院の時期の話し合いを行っている。			
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居の契約の際には、終末期支援の話し合いを行うが、入居後も本人、家族の希望と確認を行っている。また、看取りケアの対応については医療、介護で適時、情報共有を行いながらチームで支援する体制を整備している。			
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に事業所内研修や、勉強会を開催している。また、緊急連絡網を整備しており、不測の事態に対応できるよう努めている。			
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署の協力のもと、防災訓練を年2回に行っている。非常災害時にも緊急連絡網を利用し地域住民や老人会の方の協力を得ている。事業所内でも研修を行っている。			

自己	外部	項目	自己評価	月	自己評価	自己評価
			実践状況		実践状況	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシーや倫理に関する研修を行い、一人ひとりの人格を尊重した対応を徹底している。職員は人格の尊厳に配慮した丁寧な言葉使いを心掛けている。			
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日頃の会話や表情、態度を読み取り、声かけや支援に反映させています。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者一人ひとりの生活リズムに配慮し、起床や入浴、食事等は本人のペースでできるよう柔軟な対応を行っている。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣類は自分で選び、その人らしい身だしなみができるよう支援している。また、馴染みの理髪店を利用できるよう外出支援を行っている。			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	メニュー作りから利用者に関わり、残存機能を活かしながら職員と共に、簡単な調理や片付けをしている。月2回のお食事会、お茶会を開催している。また施設内の畑では、一緒に野菜を栽培、収穫し食事に取り入れる等の工夫をしている。			
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養面に関しては、併設事業所の栄養士からアドバイスを受けメニューを作っている。食事・水分摂取量をチェックし、1日を通して必要な食事や水分が摂れるよう支援している。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアの実施を習慣にしている。必要に応じて本人や家族に説明し、週1回の歯科往診、歯科クリーニングを実施している。			

自己	外部	項目	自己評価	月	自己評価	実践状況	自己評価	実践状況
			実践状況		実践状況		実践状況	
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	日々の排泄チェックを行い、排泄周期を把握し、声かけや誘導を行っている。日中はトイレでの排泄の声かけをし支援している。また利用者のプライバシーを損なわないように声掛けにも工夫している。					
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	十分な水分摂取ができるようにケアし、腹部マッサージや適度な運動を実施し、自然に排便できるよう配慮している。					
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴の時間帯や順番など、利用者一人ひとりに応じた支援をしている。拒否のみられる利用者には、声かけをする職員を交代するなどの工夫をし利用者が納得して入浴する事ができるように支援している。					
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者の睡眠パターンを把握し、散歩や家事等の日中の活動を促し、本人に合わせてリズム作りをしている。夜間不眠傾向のある方は、医師や家族と連携し対応を行っている。					
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者が服用する薬の目的を理解し、正しく服薬できるよう支援している。定期受診時には、本人の状態や日常の記録を提供している。また状態の変化等ある場合は、その都度、家族や医師に連絡している。					
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日頃の生活から利用者一人ひとりの楽しみや役割を見出し、得意な分野で能力を発揮できる環境作りを行っている。読書が好きな方は移動図書館を活用している。					
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	本人の体調を考慮し、敷地内での散歩、バラ園やコスモス祭り、ピアガーデン等に出かけている。また、近隣小学校の運動会の見学や同法人主催のお祭り等に参加している。					

自己	外部	項目	自己評価	月	自己評価	自己評価
			実践状況	実践状況	実践状況	実践状況
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在は利用者の預かり金は無く。買い物等で支払いがある場合はユニット費を使用し、できるだけ利用者にして頂き、職員は見守りをしている。			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族と連携を図りながら、手紙のやりとりや電話での会話の支援を行っている。			
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	天候に応じて照明を調節するなど生活する上でストレスとならないよう配慮している。同様に、不快な音にも配慮している。またバルコニーには季節の花や野菜を育て、日光浴などをして過ごして頂けるように環境の整備を行っている。			
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	玄関前の共有空間には、造り付けのベンチやゆっくり座ってくつろげるソファを設置し、一人で過ごしたり、気の合う利用者同士で過ごせる空間がある。			
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時には、家族写真や馴染みの家具等を持ってきていただき、住み心地の良い、安心できる部屋作りを行っている。また、職員と一緒に居室の飾り付けをし、居心地の良い空間作りを支援している。			
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	能力に応じて、できることはしてもらいながら、残存機能の維持に努め、必要に応じて支援をしている。また、居室の入り口には手作りの表札を設置し、トイレ等も分かりやすいように表示している。			